

講座名：国際環境資源政策論

注 意 事 項

1. この回答は、口述試験時に参考とする重要な資料です。回答の内容は入学試験の合否判定には直接影響しませんが、回答を提出しない場合は、口述試験を受験する意思がないとみなします。
2. 手書き又はパソコンで作成してください。
3. 回答の1枚目冒頭に、受験番号・氏名・志望講座名を明記してください。
4. 作成した回答はPDFファイル形式で提出してください。
5. 回答作成の際に適宜資料を閲覧しても構いませんが、引用もしくは参照する際には必ず出典を明記してください（Chat GPTなど生成AIの回答を含む）。
6. 回答は、他者と相談・協力等を行わずに、受験者本人が一人で作成してください。
7. 回答は口述・面接試験まで保管してください。課題及び課題の回答を見ながら口述・面接試験を行う場合がありますので、試験当日は、課題及び課題の回答をプリントアウトして、手元に準備してください。
8. 課題内容を他所に掲載・転載すること、および他者への配付を禁じます。
9. 下記の方法で提出してください（電子メールでの提出は認めません。）。

提出期限：1月13日（火）17：00（日本時間）【必着】

提出方法：TAOのメッセージ機能にアップロードすること

提出先：東北大学大学院国際文化研究科教務係

令和8年度(2026年度)前期2年の課程 (春季)	志望講座	国際環境資源政策論
------------------------------	------	-----------

課題 次のA, B, Cの3問の中から1つを選び、日本語か英語で答えなさい。回答は、ワープロまたは手書きで作成し、A4用紙3枚程度に収めること。

- A. ある尺度を用いて、2つの地区で協力的行動傾向を計測した。地区別に集計した得点および平均値を表1に示す。この表について、以下の問いに答えなさい。
- (1) 表1に示す得点分布の地区差を調べる際、用いる検定名とその際の帰無仮説を示しなさい。このとき、計測された評定値に正規性は認められなかったものとする。
 - (2) 表1に示す平均得点の地区差を検討する際、適用すべき検定名と帰無仮説を示しなさい。なお、検定に際しては、個別のデータを利用できるものとする。
 - (3) 地区Bのリーダーは平素から地区活動に熱心だが、地区Aのリーダーは地区活動に消極的だった。両地区の得点差がリーダーの違いに起因するとした場合、既存研究の知見を援用しながら、得点に地区差が生じるメカニズムを述べなさい。

表1 協力的行動得点

性別 \ 得点	40点台	50点台	60点台	70点台	80点台	平均得点
地区A	20	28	78	33	20	64.2
地区B	15	40	73	48	32	72.3

- B. 防災において最も重要な要素をあげなさい。日本以外の国の事例をもとに、その要素がなぜその国で重要なのかを説明し、その国の防災対策が遅れている点について、遅れている原因と、今後どのように発展させるべきかについて答えなさい。
- C. 大規模言語モデル (LLMs: Large language models) が経済分析の手法にもたらし得る影響について、具体例を挙げながら論じなさい。